



6月の講演会、定期総会のご案内



春爛漫の時期を迎えましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。
当会では、府中市紅葉丘で行われる「あんずまつり」から始まり、講演会、総会等、新年度の活動に向けて取り組んでいる所です。

講演会

今回の講演会では、がん研有明病院 腫瘍精神科部長 清水 研先生をお招きし、「がんところ」について、4,000人のがん患者・家族と対話した精神科医のお立場から、病気との向き合い方についてお話を頂く予定です。

がんと診断された時の早期から、そしてあらゆる療養過程においても、心理社会的、スピリチュアルな緩和ケアを受ける事により、不安や心配事を和らげる手だてになることと思います。また、がんに関っていない方も清水先生のお話を聴いていただき「がん」に備えて頂ければ幸いです。

定期総会

第23回を迎えます定期総会におきましては、今年度の報告と共に、次年度の会の運営や活動内容について、ご質問、ご意見やご要望を活発にお寄せ頂けると幸いです。

2月に杏林大学病院、がん相談支援センター主催の講演会&患者交流会で、当会の趣旨や患者会について紹介の機会を頂きました。

第23回定期総会

日時 6月23日
午後3時45分～4時半
場所 ル・シーニュ 6階 第1会議室

事前に招請状、委任状を発送します。
当日はご自宅からリモート参加もできます。

講演会 **がんところ**
講師 清水 研先生
がん研有明病院腫瘍精神科 部長
日時 6月23日 2時より
場所 ル・シーニュ 6階 第1会議室
参加費 500円 (会員無料)
リモートでの参加も可能です。
ご連絡ください。



がんと共にすこやかに生きる

～杏林大学医学部付属病院の取り組み～

先日、当院のがんセンターが行っている「がんと共にすこやかに生きるプロジェクト」(以下、すこやかな会)の一環である講演会において、府中がんケアを考える会の役員であります武智一雄様にご講演いただきました。そのご縁で当院のがん相談支援センター(以下、がん相談)とすこやかな会について紹介する機会をいただきました。誠にありがとうございます。

がん相談室の設置

全国のがん診療連携拠点病院や小児がん拠点病院、地域がん診療病院にはがん相談を設置することが要件として定められており、当院もがん診療連携拠点病院として、がん相談を設置しています。がん相談は当院に通院している方に限らず、患者さんのご家族やご友人、他院に通院している方など地域の方でなくても、がんに関するご相談ができる場となっています。電話でのご相談も可能です。また、がんが疑われる時、治療中、経過観察中などどんなタイミングでもご利用が可能です。相談員は看護師、もしくは医療ソーシャルワーカーが担いますので医師に代わって治療について診断する場ではなく、あくまで一般的な情報を提供する場となっております。

支援チームの立ち上げと活動

そして、当院ではこのような相談の場だけでなく、より地域の患者さん、ご家族の方に寄り添った医療の提供を目的として、2012年に「患者家族等の心理社会的支援チーム」を立ち上げました。そのチーム活動を「がんと共にすこやかに生きる」と称し、年5回程度、がん患者さん、ご家族、その他地域の方々を対象とした講演会と、講演会同日にがん患者さんだけの語り合いの場(患者交流会)を設け、活動を行ってきました。

会の立ち上げからこれまで、最新のがん治療や抗がん剤治療における副作用、各種がんの特徴などについて講演を行い、情報を発信してきましたが、よりがん患者さん、ご家族の方に身近で、かつ気軽に参加しやすい会にしたいと思い、2024年度からは、定員を20名前後とし、講演会も「ミニ講座」という名称に変更、内容もテーマを絞ったものにして開催する予定としています。

患者交流会

患者交流会は、がん患者さんのみの参加で、テーマを決めず、自由に語り合いをしていただく場としております。これから治療を控えていて不安を抱えている方、副作用と上手く折り合いをつけながら治療を続けている方、治療を乗り越えた方、再発して治療を再開した方など、様々な方にご参加いただいております。これまで「これから治療だけれど経験者の方々の話を聞いて少し不安が軽くなった」「後遺症や副作用にどのように対応しているのか工夫を聞くことが出来た」「自分だけが苦しんでいるのではないと分かり仲間がいることで安心しました」といった感想を頂いております。

がんに伴うストレスは、とても大きなものです。先の見えない不安に押しつぶされそうになることもあるかと思えます。そういった時に「自分だけではない」「みんな一緒なんだ」と仲間がいると思えることが大きな力になることもあります。これからもこのすこやかな会を通して、地域の方々が安心して療養できる環境づくりを行っていきたく思っております。

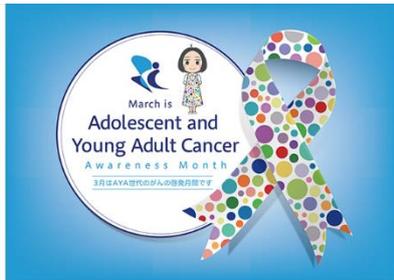
ご興味がありましたら是非ご参加いただけますと幸いです。会のスケジュールや詳細につきましては順次当院ホームページにてお知らせいたします。ご拝読ありがとうございました。

記：杏林大学医学部付属病院がん相談支援センター 看護師 道津千春・原田和沙

AYA 世代のがん患者に教育環境の充実を

～AYA 端会議に参加して～

2024年3月2日から10日までの9日間、AYA week 2024という若年世代のがんケア啓発活動が行われました。3月9日(土)に開かれたAYA 端会議に当会からは、役員の稲津がZoomでの会議に参加しました。



AYA(Adolescent & Young Adult)とは15歳から39歳で、具体的には高校生から働き盛りの30代の方々です。

この世代の方々のがん患者は、一般世間からは目につきにくく、なかなか理解されないことも多いため、身体的にも精神的にも大変な状況を抱えながら、日々を過ごしています。

上記のAYA 端会議では、AYA 世代の当事者やサバイバー、保護者、教育関係者、大学院生、支援団体の方々が参加し、それぞれの経緯や活動状況、抱える問題、今後の展望、質疑等、様々な対話をし、今後の支援活動の拡大につなげるためのネットワークの絆を持つことができました。

高校生の学習環境

その中でも、特になんが治療で長期入院している高校生の教育環境が、まだまだ整備されていない問題がありました。小中学生のがん患者には、義務教育ということもあり、比較的入院中でも希望があれば院内教育が徹底されています。しかし高校生以上に関しては、都道府県によって、リモートで授業を受けられるところもあれば、全く対応していない病院もありました。こうした若い世代のがん患者にとって、1年、2年のブランクは、その後の人生にも大きく影響する可能性が非常に高いので、治療中ではあっても、できる限り教育を受ける事ができる環境を整えることが、今後の課題となっております。

東京都では、都立小児医療センターで、がん患者の治療を施していますが、高校生以上のがん患者の教育環境がまだ完全に整備されているわけではありません。

AYA 端会議では、参加者からそれぞれの都道府県等の自治体に働きかけを進め、一人でも多くのがん患者に対する教育環境の充実を求めていこうと、決意を固めた会議になりました。

就労問題

また、AYA 世代のがん患者やサバイバーの方々の就労問題も話題になりました。世間一般では、がんサバイバーに対する偏見の目があり、採用の障壁となっている問題もあります。

つまり、事業主にとって採用しても、がんの再発の懸念があり、長期的な雇用に積極的に離れない事があります。この点については、参加者の中から今後の支援活動の一環として、取り組みたい旨の発言もありましたが、具体的な支援策の議論まではいきませんでした。

社会保険問題

私からもAYA 世代の問題提起を会議で発言しました。「AYA 世代の方々にとって、例えば自宅療養しているがん患者は、40歳にならないと介護保険も適用されず、当事者の生活を支えるには、自己負担が非常に重い。また、がん患者であっても、障害の認定は受けることはできるが、認定までに1年半かかるので、その間に亡くなる事や、生存できても生活を支えるための経済的な支援体制が脆弱な点がある」と述

べました。この点については、深い議論までは至りませんでした。参加者の間で問題意識を共有したと思います。

また機会があれば、今後もAYA Weekの活動にも参加して参りたいと思います。この会議を通じて強く感じたことは、がん患者やそのご家族といった当事者のみならず、当事者以外の一般市民が、いかにがん患者の理解を深め、寄り添っていきっていくことが自身の人生においても重要であるかを再認識した点でした。

誰も見捨てない社会へ向けて、府中がんケアを考える会としても、当会会員の皆様をはじめ、応援する方々とともに一緒に歩むよう取り組みます。

稲津憲護

杏林大学病院「がんと共にすこやかに生きる」 講演会 & 患者交流会

2月24日杏林大学医学部附属病院 がんセンターのお招きで講演会に参加、当会の患者会についてお話しする機会を得ました。

当日は1部で吉田信子先生(精神看護専門看護師)より「がんところ」をテーマとしてお話を伺いました。2部では「地域の患者会の紹介」として当会の患者会のお話をさせていただきました。

講演会終了後は別室にて患者交流会が持たれました。8名の患者と2名の進行・司会によってすすめられ、病院スタッフも参加しての交流会でした。

セカンドオピニオンや医師とのコミュニケーションなどについて質問や、経験談をお話しされました。「聞くだけです」と言いながらも次第に熱心に話されているのを聞いていると、やはり話せるところが限られているのだな、とあらためて思います。

今回は杏林大病院がんセンターからのお誘いにより参加が実現しましたが、地域のがん関連組織、活動との連携は初めてでした。今後、このような連携活動、患者会の立ち上げなどに協力できればと考えています。

お招きいただきました杏林大学病院がんセンターのスタッフの皆さん、ありがとうございました。

2024年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。

日時	行事	会場
5月26日(日)午後1時半～3時半	患者会	ルシーニユ6階第4会議室
6月23日(日)午後1時半～4時半	定期総会・講演会	ルシーニユ6階第1会議室
7月21日(日)午後1時半～3時半	患者会	ルシーニユ6階第7会議室
9月22日(日)午後1時半～3時半	患者会	ルシーニユ6階第4会議室
11月17日(日)午後1時半～3時半	患者会	ルシーニユ6階第4会議室
12月 8日(日)午後1時半～4時	講演会	ルシーニユ6階第1会議室

編集後記

「がんはどうやって治すのか」(講談社ブルーバックス)国立がん研究センター編。最新知見含め詳しい内容。「がんはなぜできるのか」(同)も面白そう。大雪の日、長野から15時間ドライブ。クマさんたちお花見に来そうですね？

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org